

発表題目

ゲティアー問題再考： 多領域様相論理と多重可能世界意味論による新解釈

細川 雄一郎 (Hosokawa Yuichiro)

所属 津田塾大学

ゲティア問題は、E. ゲティアが 1963 年にたった 2 ページ半という短さで書いたことで知られる論文「正当化された真なる信念は本当に知識か? (Is Justified True Belief Knowledge?)」 ([2]) で提起された。この論文のタイトル自体が簡潔に要約しているように、「知識」は古典的に、「(1)正当化された Justified / (2)真なる True / (3)信念 Belief」—以下この 3 条件を慣例に倣い「JTB」と略記する—と定義されてきたが、ゲティア問題とはこの「知識」の定義に二つの反例をあげて疑いを付したものである。つまりゲティアは、ある人がある事柄についてこの 3 条件を満たす信念をもっている、と言えるのにもかかわらず、その人がその事柄についての「知識」をもっている、とは明らかに言えないと誰もが認めるだろう、そのような反例を当の論文の中で構成してみせた。

ゲティア問題は、その発表以来、無数の反応を集めてきた。そのタイプを大別すると、(1)JTB の改訂を迫るもの ([3], [7], [1], [8])、逆に、(2)JTB を保存するもの ([6], [10], [9])、(3)ゲティア問題そのものの問題性を疑うもの ([4], [5])、がある。これに対して本発表では、差し当たりどのタイプにも中立に、ゲティア問題を構成する推論プロセス (以下これをゲティア推論構造と呼ぶことにする) に焦点を当て、その論理的な形式化を行う。

より詳細には、この形式化の準備過程で、本発表はまず、ゲティア推論構造が、非単調 (non-monotonic) な常識推論 (commonsense reasoning) と単調 (monotonic) な演繹推論 (deductive reasoning) の混合推論によって構成されていることに着目する。前者が非単調という意味は、このタイプの推論が、新たな前提情報が加わると、古い前提情報のもとで下されていた帰結が撤回される可能性をもつ、ということである。これに対して、論理学の正統として扱われてきた後者の演繹推論は、前提情報の追加によって帰結が撤回されることはなく、単調に増加するしかない。

その上で本発表は、このうちゲティアのシナリオにおいて「強い証拠」から偽な命題を帰結している非単調な常識推論の部分に焦点を当て、発表者が佐野勝彦氏 (現・北海道大学) と共同開発した様相論理体系 Many Sorted Hybrid Logic (MSHL) により、この常識推論の

モデルと形式化を与える。(MSHLは、簡単に言えば、複数のクリプキ構造から成るネットワークの全体を記述する、健全で完全な多様相論理である。)

このMSHLによるゲティア推論構造のモデル化と形式化によって、ゲティア問題の背景的情報構造と隠伏の情報プロセスを明示し、その結果をもとにゲティア問題の情報理論的な現代的意義を再評価する。

参考文献

- [1] F. Dretske. Conclusive Reasons. *Australasian Journal of Philosophy*, **49**, 1-22, 1971.
- [2] E. Gettier. Is Justified True Belief Knowledge?. *Analysis*, **23**, 121-123, 1978.
- [3] A. Goldman. A Causal Theory of Knowing. *Journal of Philosophy*, **64**, 357-72, 1967.
- [4] S. Hetherington. Actually Knowing. *Philosophical Quarterly*, **48**, 453-69, 1998.
- [5] S. Hetherington. *Good Knowledge, Bad Knowledge: On Two Dogmas of Epistemology*. Oxford: Oxford University Press. 2001.
- [6] K. Lehrer. Why Not Scepticism?. *The Philosophical Forum*, **2**, 283-98, 1971.
- [7] K. Lehrer, and T. Paxson. Knowledge: Undefeated Justified True Belief. *Journal of Philosophy*, **66**, 225-37, 1969.
- [8] R. Nozick. *Philosophical Explanations*. Cambridge, Massachusetts: Harvard University Press. 1981.
- [9] Paul Boghossian. *Fear of Knowledge: Against relativism and constructivism*, Chapter 7, p 95-101. Cambridge, Massachusetts: Harvard University Press. Oxford, UK: Clarendon Press 2007.
- [10] P. Unger. A Defense of Skepticism. *The Philosophical Review*, **30**, 198-218, 1971.